

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2875001501		
法人名	医療法人社団 恕和会		
事業所名	カラム箕谷		
所在地	神戸市北区山田町下谷上字かんじゃ7番3号		
自己評価作成日	平成21年11月28日	評価結果市町村受理日	2010年2月19日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-hyogo.jp
----------	-----------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央区8-8-104		
訪問調査日	平成21年12月8日(火)		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者さまが自宅で生活された時と、同じように過していたく事を重点におき、季節の行事、外出、日々の食事のあしらい地域の行事への参加、ボランティアの利用など、多彩に取り入れています。ご家族を招いての行事、お誕生日会などおこなっている。
理念に基づき、利用者さまの安心・安全の確保に努めたゆったりとした生活を提供する。
個々に合わせた生活パターンで穏やかに過されるよう気遣うと同時に、笑いのある会話からスタッフとの親しいお付き合い。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体法人が病院で、所長は看護師でもあり、医療面でのバックアップ体制が整備され安心できる環境である。一人ひとりの日々の心身状態や観察を重視した把握に努め、その人らしさを大切にされた支援をしている。外部研修への段階に応じた積極的参加や内部研修の充実で職員の育成に力を入ると共に、働きやすい環境整備にも努めている。これまで地域との交流機会の充実を図ってきたが、ホーム主催の行事が地域で周知され来訪者も増加し、双方向の交流が定着してきている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Alt+Enter)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	カム箕谷の理念として、「地域住民との交流を積極的に行なう」ことを重視している。理念をベースにしたユニットミーティングを行い、近所のお店の紹介や地域のボランティアセンターからのボランティア(フラダンス、腹話術等)との交流を図っている。	地域との交流を積極的に進めていこうとしており、地域住民、友人や知人など気軽に来訪してもらえる機会の提供や地域の情報を収集しながら活用する努力をしている。ユニットミーティングで職員間での共有を図っている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年7月の恒例の「なごみ寄席」では、年々増えている近隣の住民の来場者の方々にプロの噺家による落語を楽しんでもらった。また、地域の自治会主催の盆踊りへ参加したり、地域のボランティアに来てもらっている。	恒例のホーム主催イベントは来場者が増え、地域に定着しつつある。自治会行事を通じた双方向の交流も進んでいる。近所の人から畑の野菜のお裾分けをいただいている。	地域の認知症勉強会に職員が積極的に参加しており、地域啓発活動の活発化を期待したい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年5月地域の方々が来場される「なごみ寄席」の第1部で「認知症講話」(理事長)をプログラムした。又、あんしんすこやかセンターが主催する地域内の諸団体の方々とネットワーク構築を目指した交流会(12/17)に所長・リターが参加し新たな問題・課題の共有を図っていく予定。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、入居者の近況・事業所概況を毎回報告し、毎回タイムリーなテーマを取り上げ様々な意見を参考にし、実際の運営に反映し改善している。 (過去に意見拝聴したテーマ) 園芸療法(庭・畑)の今後 入居者無断外出時対応 外部評価報告 等	2ヶ月に1回、自治会長、民生委員、地域包括職員、家族や利用者代表が出席している。テーマや内容は現況及び行事報告等で、ホーム主導となっている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から疑問や不明なことがあれば問い合わせしている。また、デイサービス事業の指定申請やショートステイの申請時では、多く問い合わせをし適切な指導・指摘を頂いた。	運営推進会議議事録を毎年、まとめて報告している。事務連絡や書類作成でのやりとりにとどまっている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中はホームの出入り口は、夜の8時半より翌朝8時までは、防犯のため電子ロックをかけているが、日中は解除している。また、居室の窓やドアは開め切りにせず、開け閉めは入居者の自由としている。	夜間の防犯上の施錠のみ行っている。	
7	(6)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	認知症介護実践者研修の中で虐待について講義(半日程度)を受けている。当研修は、所長・リターを含み正職員13人中8人受講しており、今後も順次受講を計画している。また、神戸市事業者集団指導では、計画作成担当者が「高齢者虐待防止」について受講(3月)した。内部研修では、5月と7月の2回に渡り「虐待について」勉強会を実施した。	外部研修には職員が順次参加するとともに、内部研修も計画的に実施している。さらに日々の業務のなかで職員間で確認している。	

8	(7)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症介護実践者研修の中で「意思決定と権利擁護」のテーマで講義(半日程度)を受けている。当研修は、所長・管理者を含み正職員13人中8人受講しており、今後も順次受講を計画している。実際、ある入居者が成年後見制度を使われている。	契約時に、制度についての説明をしており、対象事例もある。外部研修には積極的に職員が参加できる機会を設けている。	
9	(8)	契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	仮申し込み(空室待ち)および入居申し込み時、契約の内容および重要事項説明書について、十分に時間をかけ説明している。解約時についても、家族の方々に了承を得るよう話し合いをおこなっている	最初に見学してもらい、希望により体験入所も取り入れている。規定の書類の説明は、わかりやすく話すようにしている。利用者、家族が十分検討できるよう、契約までの時間には配慮している。	
10	(9)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に当ホームおよび外部機関の苦情相談窓口を明示し入居時に説明している。又、年2回の「家族会」で家族の方から意見・要望を聞いている。運営推進会議(2ヵ月毎)においても入居者代表に意見・要望を聞き、ホーム運営に反映している。	年2回の「家族会」及び運営推進会議で、意見や要望を聞く機会を設けている。普段の面会時には近況報告をするとともに、こちらからも意見を聞くように声かけしている。	
11	(10)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー、所長、事務長による月次ミーティングやユニット別月次ミーティング、介護計画作成におけるカンファレンスの場で介護スタッフの意見や提案を出し合っている。	月次ミーティングやユニット別ミーティングなどで職員からの要望を取り上げている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	所長は、毎日介護現場に出向き入居者さんと接しながら職員の仕事振りを観察している。勤怠確認も月初行い日ごろの観察から個人別に正当な評価を行い昇給・賞与時の査定に反映している。また、有給休暇も制限せずむしろ奨励し、夜勤明けの次の日は休日としている。残業もほとんど無い。正職は月少なくとも8日の休日が確保できている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護研修 実践者研修は、全職員を対象に受講するよう考えている。業務に支障のない範囲で、順次計画的にやっている。また、無資格者に対しても、介護における基本的な技術講習を受けさせたり認知症介護の研修ビデオで学習している。また、介護経験の無いか浅い職員を中心に、生活場面における介護者の対応例を比較し、好ましいかわりを解説した、DVD「認知症の人と一緒に生きる」をみている。新人には、全シフト(4交替)を経験させる際も、リーダーを中心とした先輩職員によるOJTを行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の設立して長年が経つ他のグループホームとは、懇意にしており、計画作成担当者間で交流を持ったり、運営推進会議委員に認知症の知見者として当ホームのケアマネが加わるなどつながりを持っている。また、神戸市介護サービス協会やあんしんすこやかセンター主催の研修・地域会などに参加し、グループワークを通じても交流を図っている。		

安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		<p>初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>グループホーム管理システムのプロフィール(過去の仕事、趣味、特技、性格、既往歴、家族構成等を本人や家族に聞き)をシステム入力している。また、24時間途切れることなく「ケース記録」入力により入居者さんの行動や話したことは、記録し職員間で共有している。これらの情報を頭におき入居者の行動を拘束しないよう根気よく対応している。言葉使いもタメ口をきかないよう指導している。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族は入居される前に、いろいろなグループホームに行き本人を預けて心配ないか確認されて入居されている。その際や、見学にこられた時など当ホームの理念・特色など説明し、十分に納得され入所されている。また、入所後も面会は、24時間いつでも可能にし、気楽にお話しできるように職員にも指導している。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入所時、入念に家族から今までの生活様式、生活習慣などからの要望や注意事項等を聞き、それに応えるよう介護計画作成に努めている。また、計画どおり実行されているかチェックを怠らないようにしている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>ホームのレイアウトは、中央に台所とスタッフルームを配置し、ダイニング・リビングがその隣にある為、ほとんどの間をリビングで過ごされている入居者を見守れかつお話しができる。料理を手伝ってもらったり、イモ掘りしたり、1人の入居者の歌に合わせて体操をしたり、テレビを見ながらお話ししたりごく自然な形で職員と入居者が毎日を過ごしている。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>入居者に異変があれば、必ず家族に連絡している。また、家族も面会時などに気楽に相談されるし、入居者本人にとっていい方向に持っていきよう一緒に考えて対応している。又、退去時多くの家族の方から不要となった物品を寄付していただいたりもしている</p>		
20	(11)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>昔商売していた商店街や思い出深い湊川神社に行きたいと言われれば、事務課の職員の協力を得て、また、OFFの職員がボランティアとして出かけたりもしている。また、お友達が尋ねて来られることも多々あるが、昼夜を問わず気持ちよく迎えている。</p>	<p>利用者本人の情報を基に馴染みの店や行きたいところに出向くこともある。友人、知人の来訪にも積極的に支援している。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>ほとんどの時間をリビングで過ごされるので、入居者同士の言動が目目の辺りにわかり、馬の合う人、合わない人など職員が知り尽くしており、入居者の関係が一時的に悪くなくても、すぐに職員がフォローできる体制にある。</p>		

22		<p>関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>今年、現時点で2名の方が退去されたが、ある家族からは、車椅子、テーブルイス、ポータルトイレなどを寄付していただいたり、以前亡くなられた家族の方からは、料理屋を閉店するので、要らなくなった食器や冷蔵庫など沢山寄付していただき、かつ現在非常勤スタッフとして働いていただいている。</p>			
、その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>お花が好きな方、散歩が好きな方、畑仕事得意な方、飴が好きな方、歌が好きな方、様々であるが、共通で喜ばれるのは、外出である。計画的に、花見、地元自治会の盆踊り、ぶどう狩り、ホースドライブなどに行き、畑仕事(種植え、芋ほり)、庭のテラスでの焼肉バーベキューや弁当食事会、紅葉ドライブなど年間を通して行っている。また、コンビニへ飴などの買い物、音楽療法も日常的に実施している。</p>	<p>一人ひとりの好みや得意なことに合わせ、支援している。外に出る機会を作る努力をしている。テラスでの食事会、畑や花の手入れ、散歩などそのときの利用者の気持ちを汲み取りながら声かけを行っている。</p>		
24		<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>グループホーム管理システムのプロフィール(過去の仕事、趣味、特技、性格、既往歴、家族構成等)を本人や家族に聞きシステム入力している。また、24時間途切れることなく「ケース記録」の入力により入居者さんの言動は、逐一記録し職員間で共有している。</p>			
25		<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>グループホーム管理システムの「ケース記録」で入居者の過ごされている様子をほとんど切れ目なく入力している。また、朝には、パルスを計り、月1回体重測定もおこなっている。このような情報や職員からの申し送りによる情報をかみ合わせ最新の入居者状況を把握している。</p>			
26	(13)	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>入居者の毎日の行動は、グループホーム管理システムの「ケース記録」の情報や職員の持っている情報や思いをもとにアセスメントを行い、カンファレンスを開き、また、家族からの要望や意見など日頃から聞いていること、及び「家族会」や「運営推進会議」での意見や要望を反映した介護計画を作成している。</p>	<p>ケース記録や気づきノートを基にアセスメント、カンファレンスを行い、主治医や家族に相談のうえ計画を作成している。利用者の状態の変化に即応するために、直ちに行動することを重視している。</p>		
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>入居者の言動は、グループホーム管理システムの「ケース記録」に入力している。また、職員間で、気付いたことや今までと違う対応をカンファレンスの場で話し合い計画作成担当者の作成する介護計画に反映している。</p>			
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>昨年、カム箕谷デイサービスを立ち上げ、デイサービスのサブリーダをカム箕谷に事業所異動させ、機能訓練やレクリエーションなどアクティビティをデイサービス利用者と一緒にいった。また、利用者が近くのコンビニやスーパーに行きたいと言われたらスタッフが同行している。病状は安定しているが、入居者本人が入院を希望されたケースでは連携の病院に無理をお願いして入院させてもらうなど、入居者および家族の方のニーズにあったケアに努めていく。</p>			

29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者自身から、要望はあまりないが、地域社会との交流を目的に、自治会の盆踊り(お寺)に参加したり、神社のお祭りや、子供歌舞伎などに参加させてもらっている。また、地域のボランティアセンターを通し腹話術のボランティアに来てもらっている。		
30	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	遠方のかかり付けの病院を望まれる入居者には、家族同伴でいってもらっている。また、月1回連携の病院から往診にきてもらい健康管理に努めている。その他の病院診察が必要な場合、すぐ近くの連携病院にスタッフが同伴して診察を受けている。	かかりつけ医については、入居時に話し合いを行っている。現在は事業所の提携医を全員がかかりつけ医としている。定期往診や必要に応じ随時往診が可能。眼科や耳鼻科等は症状を家族に伝え、医師へ受診結果も家族から事業所へ報告し状況把握を行っている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療系の介護施設として、看護師が多く在籍している。所長が看護師資格を持っており、かつ同じ施設内に訪問看護ステーションもあり、24時間体制で緊急時対応が可能としている。		
32	(15)	入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携の病院に入院するケースが多く、当施設の看護師のほとんどがその病院から異動している。病院の院長をはじめ医師や外来・病棟看護師とともに親しい間柄で入退院なども、当ホームの要望を聞き入れてもらっている。	協力病院との連携が十分図られており、入退院の対応が迅速にできている。病状によって他の病院への転院もスムーズになされている。医師との連携で早期退院につなげている。	
33	(16)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアなどについては、全家族に話しをして、どのようにしたいかなど確認している。今年7月の「家族会」では、「医療連携体制における具体的なサービス」および「重度化した場合の対応に係わる指針」を家族に対し、説明し再確認した。	入居時及びその都度、本人、家族の気持ちに添いながら話し合っている。「家族会」でも資料を再度提供し事業所が対応できるケアについて説明する等の働きかけを行っている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年、吸引器についての技術指導訓練を行った。AEDの使用方法は、2年前に購入時に研修会を開いたが、以降は実施していない。		
35	(17)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回(12月・6月)に主に夜間想定で、発火 - 現場確認 - 初期消火 - 避難アナウンス - 警報アナウンスストップ - 消防署状況説明 - 避難の一連の訓練を実施している。地域ぐるみでの具体的な防災体制までには至っていない。	避難訓練は年2回、消防署の指導のもと実施している。利用者は不穏になるとの判断で参加していない。避難経路も訓練を通して整備されている。備蓄も準備されている。地域住民の参加は得られていない。	地域と普段から関係作りに努めているが、災害時の協力を得られるには至っていない。少し範囲を広げて「小地域会」(地域の自治単位)の協力を得る取り組みから始めてみてはどうか。

その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(18)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常のケアや勉強会などでリーダ・所長が言葉づかいやプライバシーなど指導している。広報誌の掲載写真なども本人・家族の了承を得ている。職員の入職時に、個人情報保護についての説明を行い周知している。例えばターミナルケアの入居者には、リビングのコーナでおむつ交換などの際には、カーテンで見えないように配慮している。「行動指針」にも尊厳を守ることを明示し現場に掲示している。	言葉遣いは一人ひとりの心地よさに配慮して使い分けている。声かけ一つで反応が違っているので、特に急いでいるときは注意している。プライドを傷つけないよう着替え等はさりげなく自室へ誘導する。利用者の尊厳を大切にすることを「行動指針」に明示している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の食事メニューを決める時も、入居者に今日は何食べたいですか？とか アクテ化ティの際も、どんな歌を歌いましょうかなど入居者の気持ちを聞き、心の中にあるものを引出すよう声掛けの基本として疑問形で語りかけ自己決定を促している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就眠など入居者個々人のペースに合わせている。また、行事の際には、事前に内容のおしらせをし、急がせず慌てず協力していただいている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月毎に理美容師が来所し、整髪している。今の入居者にはいないが行きつけを要望された家族が同伴していただく。また、年数回お化粧品ボランティアをお願いしており、女性の入居者には喜んでいただいている。		
40	(19)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	3食とも、スタッフが入居者に手伝ってもらいながら料理をつくり、配膳、下膳なども入居者にさせていただいている。又、米とぎや巻きずしなど作ってもらったり日曜日などはお好み焼きやたこ焼きなどスタッフと一緒に料理して楽しんでいる。献立・味については、入居者の好みを頭に入れ、季節に応じて、記念日や祝日にあわせたものを組み込むよう心掛けている。	食事の下準備や配下膳は利用者と一緒にしている。買物に同行するときは、季節も感じながら利用者がいきいきとされる。普段は調理方法の希望を尋ねている。誕生日には好みのメニューの提供やケーキをおやつに出し、楽しみの支援がなされている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日30品目を目標にしており、色どりなどにも気を使って食事をだしている。今後は糖尿病等の持病を持つ入居者のため栄養管理士の資格を持つスタッフが献立表を作れる環境を検討している。水分確保は、所長(看護師)が、臨機応変に職員に適量(目安として1日1,400cc)を指示しており、不足している入居者には医師に相談し点滴を行い補っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝昼夜食事30分以内にうがい、ブラッシングを欠かさず行っている。加えて夜は義歯について洗浄剤を使って洗っている。また、食事前には口腔ケア機能訓練を行っている。月1回協力歯科医院に往診を受けており口腔ケアの要領、注意点などの指導を医師、歯科衛生士から受けている。		

43	(20)	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>2時間毎にトイレ誘導を基本とし、夜にオムツをしている入居者も日中は、リハビリパンツやパットを使用して訴えや様子をみてトイレ誘導している。失禁されるとその様子から見分けられるので、トイレに行くように声をかけ誘導し介助をしている。また、排泄後には丁寧に陰洗を行っている。</p>	<p>排泄パターンや表情、様子で職員が声かけしてトイレ誘導している。適切なトイレ誘導がオムツはずしや排泄の自立に結びついている。トイレが3箇所あり、利用者の障がいや好み、居室からの距離に応じて使いやすく配慮されている。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>入居者の体調維持・ストレス解消のため男性の入居者の歌(北国の春)に合わせ朝の体操を欠かさず行っている。グループホーム管理システムの「ケース記録」で入力された排便の状態と量を確認し、食事に食物繊維(ワタス、ごぼう、バナナ等)を取り入れる等心がけている。また、整腸のため主食の他にヨーグルトやヤクルトを付けている。</p>		
45	(21)	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている</p>	<p>入浴は時間に自由度を持たせ9時～17時の間で基本的に入居者の入りたい時にしている。毎日入りたい人は毎日入浴し、そうでない人は、本人のペースに合わせているが少なくとも週3回入浴するようにしている。また、柚子湯・カリソ湯・菖蒲湯などでお風呂を楽しんでもらっている。</p>	<p>入浴したい日時に入浴できるようにしている。季節感を味わえるようゆず湯等の提供や皮膚の弱い人には特別の石鹸を使う等個々に支援がなされている。入浴拒否する人には、職員を選んだり、声かけのタイミングを考えたり工夫して入浴してもらっている。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>朝の散歩や軽い体操、買い物等できるだけ体を動かすことを日課とし、自然な生活リズムの中で安眠策を取っている。寝つきの悪い入居者には、スタッフルームで、もしくは冬の時期、コタツに入り温かい飲み物を飲みながらお話しをして気を落ち着かせている。薬にはできるだけ頼らないようにしている。また、寝る前に足湯をしたりして眠りやすい工夫もしている。</p>		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>個人別に、処方された服薬表をもとに入居者個別(薬箱)に朝・昼・夜に分けて管理しており、服用前には、職員の2重チェックにより分袋し、かつ、入居者の確認をとり、服用してもらい、服用後は、服用担当者が捺印して、漏れや間違いを起さない配慮をしている。</p>		
48		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>入居者には、食事の料理の手伝いや、配膳・下膳、畑仕事(種植え、収穫など)、居室の清掃、廊下・階段の掃除、洗濯物の片付けなど得意なことや好きなことで役割を持っている。毎朝、朝の体操では、「北国の春」の曲でホーカル担当の入居者を中心に実施している。なごみ寄席(イベント)では、入居者の出番を作り、美空ひばりの「真っ赤な太陽」と、千昌夫の「北国の春」で「リハビリ体操」をステージの上で演じてもらった。</p>		
49	(22)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>天気の良い日に庭のテラスで焼肉パーティを楽しんだり、畑仕事や、コンビニへ買い物なども都度行っている。散歩は日課としている。</p>	<p>外出はその日の気分でドライブに行ったり、ホームの庭を歩いたり、細かな配慮がなされている。ホームの庭には車椅子用の散歩道がある。ミュージカルや歌謡ショーにも職員同伴で参加したり、家族と帰宅や食事等普段行けないような場所にも出かけている。</p>	

50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	建前としては、施設ではお金は預からないが財布を持たないと落ち着かない入居者には、持ってもらっている。小銭のお金を(2,3千円)小遣いとしてコンビニで買い物を楽しみとしている入居者もおられ、必要な医療費や日用品代は施設で立て替えて購入し、領収書を付けて家族に請求している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が電話をしたくても掛けれない時は、相手につなげてあげている。また、月に何通か手紙を出したいといわれれば、事務課に行き切手を譲ってもらうなどお手伝いするようにしている。		
52	(23)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下は回廊型で見当識障害に対応しており、居間と食堂と台所が一体となった家庭的な作りになっている。 トイレも普通の家庭と同じように居室の中ではなく、居室のすぐ近くに設置している。 施設玄関が道路から奥まっている為、施設入り口付近に事業所名が入った目立つ案内板を設置している。 施設周りと玄関付近には、葉ボタン、ハンジ、つつじなど四季にそった花木を植え、1階玄関前には金魚とどじょうの鉢を置いており親しみやすさと入り易さを表現している。	廊下が広く、台所が中央にあり、開放感がある。ところどころに椅子があり、少人数で過ごせる配慮もなされている。食事はテーブルの移動等もして、利用者の関係性に応じて安心できる空間作りを行っている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の一番端の落ち着ける場所に2~3人掛けのチェアを設置しており、実際に気のあった入居者が利用しておられる。		
54	(24)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド・チェスト・エアコン・空気換気機は、備え付けだが、テレビ・収納箱・仏壇など好みのものを持ち込み、衣類関係も今まで使っていたものを自由に置けるようにしている。又、家族の写真・思い出の品など飾り、個人個人に馴染んだ居室になっている。	ゆったりとした広さで、馴染みの家具が持ち込まれている。自宅のベッド持ち込み、畳敷き等好みに合わせた居室になっている。部屋の入り口に家族との写真や作品を貼ったボードが掛けてあり、楽しい雰囲気が伝わってくる。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者のやりたいことをしてもらっている。掃除機かけ、洗濯、食器洗いなど、すこしムリでないかと思ってもやってもらい、そばで転倒しないよう見守ったり、あとで、本人に気付かれないように、フォローしている。		

